

午後2時6分再開

○議長（柴田裕隆君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、3番柴山恭子議員の質問を許可します。3番柴山恭子議員。

（3番柴山恭子君登壇）

○3番（柴山恭子君） 平成22年第3回定例会、市長が勇退される最後の一般質問をしますこと、不思議な御縁を感じます。運動公園より下水道、ぽっとな便所で企業誘致ができるかで戦われ、市長となり、合併、企業誘致、数々の困難な事業を推し進め、実績をつくり上げられました。

私は、市長の言葉の中で、忘れられないのは、若い職員を見てやってほしい、安い給料で一生懸命頑張りよる、褒めてやってほしい、というものです。やはりいい市長だなと、そのときつくづく思いました。

また、退職される井上総務部長、朝農跡地で随分とやり合いましたが、ある日ふと、ほう、こんなふうにしてあるのかとわかり合えたこともあり、ああ、彼は体も大きいけれど、心も大きな方だと、ほっといたしました。

小島部長、ひょうたん池に流れ込む排水調査に積極的に取り組まれ、何と実行力のある方だと感心いたしました。

今福課長補佐、私のところにわざわざ、ひょうたん池の掃除をお願いしますと言ってこられました。ええ、ひょうたん池の掃除を毎日するのかと思いましたが、まあ、それなりに、頼まれたからにはやらなくてはいけないと思い、今福課長補佐のおかげで、ひょうたん池掃除を続けることができましたし、2人で回った甘木川、佐田川河川敷調査、ああ、いろいろ感心することがたくさんありました。

市長を初め退職されます多くの皆様の頑張りに、心から感謝いたします。まことに御苦労さまでございます。

さて、きのう平田議員の質問に、求職者2,181名という答弁がありました。平田議員は起業することや、補助金の活用による雇用の促進を訴えられました。私も農業を含め、商工業の活性化を強く望むものです。朝倉商工会議所会員1,050社、杷木・朝倉商工会783社、非会員を含めると2,683社、すべての会社が経済活性化対策を待ち望んでおります。1人スタッフをやめさせますと、2,683人が失業し、1人雇い入れることができれば、2,683名の雇用が生まれます。

私は東京ビッグサイトへ、太陽光発電システム施工展、水素燃料電池展に行っていました。東京ドーム3.3倍、その規模の大きさ、人の多さにびっくりいたしました。鳩山首相、CO₂温暖化ガス削減25%への取り組みがもたらし

たものか、買い取り電気料が上がったためか、環境事業への参入の熱い思いが伝わってまいりました。1キロワット約70万円、国、県、市からの補助金が出れば、需要がふえると思われれます。朝倉市においても中小企業活性化のため、経済活性化対策に取り組んでいただきたいと思います。

これより質問席にて続行いたします。

(3番柴山恭子君降壇)

○議長(柴田裕隆君) 3番柴山恭子議員。

○3番(柴山恭子君) 秋月郷土館基本構想についてお尋ねいたします。

このほど、新秋月郷土館の基本構想が示されました。平成22年に基本計画、23年実施設計、24年度着工、25年秋にはオープンとなる予定であり、基本計画の考え方は大きく三つ、1、交流・観光のシンボルとしての役割、2、地域博物館としての役割、3、歴史、文化、教育を踏まえた役割となっております。

この基本的な考え方は、秋月及び郷土館を核として、秋月を観光地として世界にアピールしようという発想でありましょうか、質問いたします。

○議長(柴田裕隆君) 商工観光課長。

○商工観光課長(鶴田浩君) 秋月をどう生かしていこうかということもありますけれども、基本的には柴山議員がおっしゃったとおりでございます。その中で、秋月の核としてという言葉がございました。私ども、新郷土館は秋月地域の核となるかということにつきまして、一定の考え方がございますので、そのあたりを申し述べさせていただきたいというふうに思っております。

郷土館は現在も地域の誇りであると同時に、核としての存在感を十分果たしているものと受けとめております。伝統的景観、町並みの場所にあり、黒門、目鏡橋、武家屋敷などとともに、秋月を散策する人々の目印、シンボリック的存在であることは御存じのとおりであります。それだけではございませんで、郷土館は精神的な核ということでも重要な役割を果たしております。

と言いますのは、秋月地域には地域が一致団結して、地域イベントなどに取り組むことが数多くあるのでございますが、その中には郷土館を中心として、人々がまとまる姿が見受けられます。例えばあした予定されております、葉室麟氏講演会において、郷土館に集う、協力し汗を流すという姿がございました。葉室麟とは時代小説、秋月記、秋月と記録の記と書きますけれども、その秋月記により、平成21年秋の直木賞の最終選考まで残りました、その作家の名前でございます。その方を招いての講演会であります。それがあす15時から秋月中学校体育館で行われます。市と市教育委員会が後援、後押しをしているものでございます。

講演会は郷土館の友の会と緒方春朔没後200年を顕彰する医師会を中心とし

た実行委員会体制で実行されます。緒方春朔とは、秋月藩のお抱え医者で、現在インフルエンザ予防接種など予防医学が発達しておりますが、天然痘を予防する種痘という形で、日本で最初に行った医学者でございます。友の会とは、地元の方々を中心とした約350名の会員がおられまして、郷土館を守り、育てるために活動しているわけですが、そこが講演会の企画、実行に汗を流しております。講演会の協力団体としては、秋月校区の3公民館、秋月財産区、秋月中学校PTA、消防団第18分団、その他の多くの地元の団体が参画しております。実行委員会の委員長には、秋月郷土館の館長が当たっておられます。館長は秋月黒田家の15代であります。郷土館を、いわばエリア全体のシンボルとし、館長や黒田家当主を地域の方々が盛り上げるというような風土といますか、ならわしといますか、文化といますか、そういうものがあるわけでございます。これこそ温故知新、そのものであると考えております。

申し上げたいのは、今の秋月郷土館には、秋月地域の精神的な核になるようなところが、現にあるということを知っていただきたいということでございます。このことは、郷土館を地域と一体となって運営していく中で、大きな役割を果たしていくものと期待をしているところでございます。

新しくつくろうとする郷土館でございますが、核となる施設になるだけではなく、今後とも秋月の精神的な核であり続けてほしいと思っております。核であり続けることが、町並みや景観を支える方々、文化を大切にしたいと考えている方々にとって、そこに住む意義や誇りにつながる重要な要素になるのではないかと考えております。

るる、長くなりましたけれども、現在の秋月郷土館も既に秋月地域の核でございますし、今後も核となるということで、核につきまして申し述べさせていただきました。長くなりました。失礼いたしました。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） それでは質問いたします。

それほどにすばらしい新秋月郷土館を、来館者目標3万人とするのは少な過ぎると思うのですけれども、今お話を聞けば、とても魅力のある郷土館となり得ると思うのに、なぜ3万人との試算を出されたのでしょうか。

○議長（柴田裕隆君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田浩君） 3万人の計算につきましては、算出根拠がございまして、朝倉市民とか朝倉市近隣住民、それから、学校団体、観光客、それぞれにどのくらいの総数、キャパがありまして、そのうち、少なくともこのくらいの方は来られるであろうという、最低限の数値を見込んだということでございます。

この3万人を見込むに当たりましては、事業の運営費を積算するための根拠でもあります。そういう意味もありまして、長いスパン、開館当時の一番新しい数字ではございませんで、長いスパンで、最低でもこの数値にはなるというような形で、運営事業費概算の入場料収入を積算する場合にも使うということで、3万人ということを設定をいたしております。ただ、これが本来の目標数かということではございませんで、事業費等を計算するときの基準となる数値ということで位置づけをしております。

目標は3万人ということでございますけれども、本来私どもが思っている数字では、幾らという数字は申しませんが、大きな数値を目指してやっていきたいと。実は、この3万人という数字ですけれども、現の秋月郷土館が多い年では7万人入ったということもございまして、そういうことも考えながら、実際の数値、入館者を多くしていきたいというふうには考えております。以上です。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） 朝倉市観光入り込み客数は、平成20年11月44万5,000人です。私がなぜこの3万人が少な過ぎると思ったかと申しますと、今の卑弥呼の湯にあります。卑弥呼の湯は思いもかけない入館者の多さで、建物に比べ、浴場、脱衣室が狭過ぎ、とても混雑し、広げる余裕さえもないからです。明らかに設計する際、過小に評価し過ぎたと言えます。郷土館を設計する際、いろいろなことを考えなければなりません。経費の面だけとか、ただ、少な目に見積もったほうが大過がないだろうとか、そういう甘い考えでは、この核となる郷土館が死んでしまいます。そこのところを、もう一度お答え願います。

○議長（柴田裕隆君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田浩君） 多くの方々が来られたときに、こういう施設の考え方でよろしいかということでございますけれども、今、構想に示しております諸室の配置案というのを見ていただきますとわかりますように、ここの施設の中に、常時、例えば卑弥呼の湯のように1時間とか2時間とかというようなところではございませんで、例えば活動をする部屋とか、活動部屋といいますと、教養部門とか教育普及部門、そういうところ、それから、展示部門というようなことが考えられるんですけれども、小さな施設であると、大きな人数をそこに入れることができないというような施設ではございませんで、いろいろな考え方から、面積を900平米としたようなところもございまして、大きな人数にでも対応できるというような施設になろうかというふうに思います。以上です。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） ただいまの答弁を考えますに、どうあっても、郷土館を点としか思っておられないとしか考えられません。秋月全体を考えるとときに、あそこは核とならなければならないところ、点となっては困るのです。いいですか、事業仕分けでもあるように、箱物をつくることは、今タブーとされております。箱物が投資効果が上がらず、運営不振となるからです。水の文化村がまさにそういった施設ではないでしょうか。なぜかと申しますと、箱物は何よりも地域住民や、それに飛来する人たちの心が計画に組み込まれなければならないからです。住民からはどのような意見が出されているのか、お尋ねしますし、この計画が自分たちだけの考えで行われてはならないと思いますので、質問いたします。

○議長（柴田裕隆君） 農林商工部長。

○農林商工部長（牟田芳高君） 住民からの意見ということでございます。この構想を現在練っておりますのは、現在の郷土館の運営体制といえますか、これが財団法人でございまして、法改正によりまして、解散の時期が、やがて参ると。そのようなことから、現在管理をされております黒田家の所管、もろもろ、こういったものが散逸しないために、やはり秋月地区の魅力、朝倉市として継続していくために、どのような保管体制なり、管理体制なり、整備の道があるのかということで、コンサルを入れながら、大きな概要の計画を立てておるところでございまして。今後市民の方々なり、特に秋月地域の皆様方の御理解を得ていくというものは、また、秋月地域の皆さんの民意を盛り上げていくというのは、今後の仕事になってまいるといふふうに、私ども思っております。4月以降早速、このできました基本構想に基づいて、地元なり、市のそれぞれの方々の御意見等を伺ってまいりたいといふふうに考えておるところでございまして。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） 去年私どもは行政視察で行きました伝建地区、まず、住民の生活あり、これを優先するとのことでした。薄暗い蔵の奥にトイレと書かれてありましたので、私はいつもトイレを見ることが大好きですので、開けてみました。すると、とても明るい近代的設備だったのに驚かされました。

秋月をどのようにしたいかを考えるべきでしょう。生活する住民の視点で検討を行い、地域が持つ財産に付加価値をつけるのが行政の役割ではないかと思われまます。

郷土館を取り巻く貴重な史跡、原古処、さっき言われた緒方春朔記念碑、時櫓、キリシタン橋、河津桜、点在する記念碑にも光を当て、秋月全体が大きな面となる観光地として位置づけ、もてなしの心を住民にお願いできるような環

境づくりが必要と思われれます。そのためには、生活道路の整備、駐車場、公共施設の整備が必要となります。点としての計画でなく、秋月全体としてのまちづくりを住民とともにどう考えていくのかをお尋ねいたします。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（塚本勝人君） 今、柴山議員が言われましたことは、的確なる御指摘をいただきまして、本当にありがたいというふうに考えております。

柴山議員の考え方と、私の考え方はおおむね一致はしておりますが、そもそもの秋月郷土館の最初の取っかかりは何であったかということ、原点に戻って考えなければならないというふうに思っております。

それは、13代の当主であります、秋月の殿様からの申し出がございまして、3年ぐらい前まではとんとんぐらいいっておったのが、入館者が少なくなったというふうなことで、赤字になっておると。それからまた、非常に郷土館が老朽化しておりますので、盗難が1、2件あったというふうに聞いております。そういうことから、ぜひ、これをセキュリティーの問題で、まず、盗難に遭わないような設備にしていきたいというような要望もありました。でございますので、まずは観光地として何が一番大事かということになりますと、まず、トイレである。だから、秋月の特環を優先的にやりました。もう大体8割方、終末処理場はもうでき上がっておりますので、あとはつなぎ込みをどんどんやればいいというような形になっております。それから、今、あそこにはシャガール、ピカソ、ミレー、横山大観、東山魁夷等々、洋画に邦画に、本当にすばらしい作品がございます。そういう作品が盗難に遭わないような設備をつくらにゃいかんということで、今計画をしておるところでございます。

現時点におきます、今、休館になりますかね、今の設備の倍以上の展示場を、そしてまた、島原の乱のときに出陣をしましたときののぼり旗等々がたくさんございます。そういうものをちゃんと入れるようなコンクリート製の倉庫等も併設をしていくということでもあります。

そうすることによって、本来であれば、10万人ぐらいを目標に、大ぶろしきを広げたいところではありますが、余りこれを言いますと、泥棒さんが待ったりやせんかなというようなことも考えますし、大体朝倉人というのは非常に謙虚な性格の人たちが多いわけでありまして、10万人とか大ぶろしきを広げて、どんどんやりますよというようなことは言わないのが朝倉人ではなかろうかなと、私は朝倉人の気質としてそういう考え方を持っておるわけでございます。

3万人というのはちょっと、それにしても遠慮のし過ぎである。たまたま卑弥呼の湯は、あそこにお湯が出ましたので、ああいう結果になりましたが、もともとはお湯が出なかったならば、ああいう結果にはならなかったのではない

かなというふうにも反省をしております。

そういうことでございますので、今の時点から、余り大ぶろしきは言わない。しかし、確実に、謙虚に、そしてまた、市民の皆さんから愛される、これは駐車場も含めまして、旧秋月町の方々に御迷惑のかからない程度の駐車場を兼備して、観光客を呼びたいと。これを原鶴の宿泊までつなげたいというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） 私は、何としてもこれをきっかけに、秋月を住みやすい町につくっていただきたいと思い、この質問をいたしました。

今、市長が言われたのは、地域博物館としての役割という形の郷土館ですよ。これを読みますと、地域博物館としての役割、所蔵文化財の評価、体系化した整理、文化財の収蔵、展示機能の未整備とありますが、具体的にここにあります、このような文化財をどのような評価や調査、研究をすべきだと考えてありますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（塚本勝人君） ちょっと、その前に、我々は秋月をただ単なる秋月町の観光とか、そういうことで考えておるわけではありません。全朝倉市の観光の核として、高度の利用をしたいというふうに考えております。したがって、これは原鶴温泉にも関係がございますし、それから、高木周辺整備ですね、あそこのナシ狩りとか、それからまた、志波柿等々、それに関連いたしまして、水源涵養林、ダムを利用するところの水源涵養林、これは毎回言っておりますけれども、江川ダムの上が3,000町歩、寺内ダムの上が5,000町歩、これを国、県、あるいは国土交通省、そしてまた、水資源開発公団、ダムの迷惑を受けておりますので、この水源涵養林をぜひともひとつ頑張っつけていきたい。そうすることによって、広大な観光立国、観光の市として、それからまた、後から柴山議員からも質問がございますが、丸山公園の周辺整備、これも関係しておりますので、一緒に考えながら、広大な観光計画をとりながら、ひとつこの際大ぶろしきを、ちょっと吹きますけれども、8,000町歩の水源涵養林をつくるというような構想もございます。以上でございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） 私はですね、秋月に住む人たちが暮らしやすいことが、九州の秋月が一大核になると考えております。秋月だけの整備のことを申し上げて、今言っているのではありません。九州の中の秋月、日本の中の秋月として、立派な観光地となるためには、その中に住む人たちが暮らしやすい場所ではなくてはならないと思い、この質問をやっております。もちろん、市長の

気持ちはよくわかっております。済みません。じゃあ、先ほどの答弁をよろしくお願いします。

○議長（柴田裕隆君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田浩君） 中にあります資料とか美術館をどのように評価していくかという、そういう質問の趣旨だと受けとめておりますが、まず、中にある物といいますか、展示する物の総点数とか、どういう価値があるかとか、いろんな情報を1点、1点ごとに調査する必要があるというふうに思っております。ただ、その評価をするために、例えば価格がどうかとか、それから、例えば鑑定士とかに頼むというような評価は、今のところは考えておりません。それから、もう一つ考えてないのが、その中にあります物の真贋といいますか、本物かどうかとか、にせものかとかいうようなことも、一つ一つ調べるということには考えておりません。

展示をするために、大きさとか、一つ一つデータをまとめ上げまして、全体の目録といいますか、それをつくっていくと、それが評価に当たるかどうかはわかりませんが、作業とすれば、そういうふうな作業を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） それは体系化した整理、文化財の収蔵、展示機能の未整備を具体的に整備するということだと思われまます。でも、地域博物館としての役割の中に、所蔵文化財の評価というのがはっきり書かれております。この評価はきっちりとされたほうがよいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（柴田裕隆君） 商工観光課長。

○商工観光課長（鶴田浩君） その評価の方法について、今、どういう形で評価するかということは、ただいまのところは、どういう方法でするかということにつきましては、今明確な考えを持っておるわけではございません。以上です。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） じゃあ、その点もお願いいたしまして、実は、何で私がこんなふうに言うかと申しますと、私はカイロ博物館、トプカビ宮殿での感動を忘れられないからです。解説文により、想像の世界がとても広がることができました。例えばイギリスの世界一大きなダイヤモンドと展示されていても、ガラス玉と何ら変わりはありませんでした。しかし、その世界一のダイヤモンドと言われるところに、実は、これは工法で世界一です。世界で一番大きいダイヤモンドなんですよ、そして、このダイヤにはこういう物語がありますというのが、きちっとありました。それがあってこそその展示でしょう。それを、私

たち素人は見ることで、それがどんなものかを判断することはできません。だから、きちっとした解説と評価をお願いいたします。

次、歴史、文化、教育を踏まえた役割となっております。これは新秋月郷土館に一番望むものです。稽古館は文武両道を学ぶ場として、今なお稽古館の教えとして、秋月中学校の根幹をなすものでしょう。誇りある歴史的町並み、石垣のまま残された田畑、あぜ道、そして、何よりも春の小川の歌を思い出される清流、お祭りの伝承などから、優秀な子供たちが育っているのではないでしょうか。

朝倉の進むべき道は、優秀な人材を出すべき教育に力を入れること、新秋月郷土館では、どのようなことができると考えられますか、お尋ねいたします。

○議長（柴田裕隆君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 具体的にどのように活用していくかというのは、これからの問題だと思っておりますが、ここに示してありますように、子供たちが郷土館を中心とした学習をすることによって、最終的には郷土愛に目覚めた子供たちが育つと考えております。

現在、教育委員会では特色ある学校づくりという言葉や、魅力ある学校づくりというように表現を変えようということや話し合いをしまして、学校づくりを取り組もうとしております。

秋月中学校、秋月地区は、この郷土館の教えとか、そういうものを中核として、魅力ある学校づくりの方向を明確に、ほぼしてきたなというふうに感じております。蜷城小学校もはっきりとしたものをつくり上げて、これは営々として来ているというふうに思っています。このように、地域の方と一体的に理解し合えるような魅力ある学校をつくっていきたいというふうに思っています。そういう学校づくりの一つのきっかけになる郷土愛を醸成していく、そういうふうなことで考えております。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） まだまだこれからの計画ですので、よろしく願いいたします。

秋月は観光客のためだけのものではありません。去年は田代家、ことしは新郷土館と予算をつけ、整備するのではなく、秋月全体を長期的な計画を持って整備し、地域の持つ潜在能力を高めなければなりません。歴史的文化的特性を生かし、地元住民の協力のもと、新郷土館が進化し、目的以上の効果を上げなければなりません。点としての計画ではなく、秋月全体、朝倉全体としてのまちづくりを考えていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

次に、甘木公園の整備についてお尋ねいたします。

去年甘木公園で行われました市民祭りでは、野外音楽堂周辺の雑草がとても気になり、ボランティア20人ほどで草刈りをいたしました。しかし、ことし行ってみると、きっちりと草刈りが行われ、全体に手入れが行き届いていると感心いたしました。昭和橋の塗り直し、剪定も進められ、すっきりとし、市民からは随分と喜ばれているようです。バーベキュー広場から大平山への道はやぶツバキ、タラノメ、切られたクヌギの木からシイタケが何本も生えていました。ウグイスも上手に鳴き、シバの花の香り、初めて登った広場はそのまま大平山へと続き、いつの間にこんなにも整備がなされたのか、びっくりいたしました。トイレも古くはありますが、掃除がされてあります。BSのボランティアの方が公園内のごみを集めてあったとのこと、ありがたいことです。朝倉市の誇れる市民の健康づくり、楽しめる、喜ばれる、すばらしい公園だと思います。

私は、公園を利用される皆さんに聞き取り調査を行いました。課題があることもわかりました。まず、遊具の傷みが目立ち危ないと思う。修理はされないのかということ。藤棚の剪定はいつ行われるのか。ぼうぼうと枝が絡み合い、あれでは立派な花は望めないのでは。藤棚の増築はなされないのか。ショウブは土がかちかち、あれでは花が咲かない。池から続くショウブ園は、コンクリートの丸い枠だけで何もない。池の周りの桜の木に毛虫が大量発生。気になって散歩もできない。葉が食べられてしまい、12月に花が狂い咲きする。桜、もみじ、ツツジ、藤、シャクナゲ、しだれ桜、ロウバイ、梅など、季節の花木が欲しい。花畑がないのはどうしてだろう。香りのある公園であってほしい。多くの雑草、テイカカズラ、キツネノボタン、ノアザミ、キンミズヒキ、群生してとてもすばらしい。野鳥の写真、花の写真の展示などがあれば持っていきたい。情報の提供のためにも、見どころを知らせる公園案内板、季節ごとのホームページを立ち上げ、もっとアピールすればいい。来園者のアンケート箱など設置しては。バーベキュー広場の申し込み方は。多くの皆さんから公園に寄せる期待の大きさを聞かせていただきました。

公園には勤労青少年ホーム、体育館、野球場、テニスコート、多くのフィットネスサーキット、野外音楽堂、多目的広場、起伏に富んだランニングコース、周辺には武道館、弓道場など、多くの体育施設があり、市民の健康づくりの場としても大切なところ。いつまでも市民の憩いの場として、また健康づくりの場として、甘木公園は長期的に整備し、計画しなければならないと思いますが、将来における計画、事業について、部長はどのような公園にしたいと思っただけなのか、質問いたします。

○議長（柴田裕隆君） 都市建設部長。

○都市建設部長（樋口信尋君） 本来でありますと、都市建設部長ですので、

部長としての基本的な考えを述べるわけでございますが、今申しますように、私の個人的な考えを、先に申し上げたいと思います。

甘木公園と言えば、甘木小唄にもありますように、花の丸山ぼんぼりともりゃ、と歌われてありますように、春の桜が有名でございます。一口に、どのような甘木公園にしたいかと申し上げますと、甘木公園に四季を感じる香りと彩りを添えたいというふうに考えております。

内容を申し上げますと、春は桜を中心に、公園の北側、山の斜面一帯に秋を彩る山もみじ、それから、山ハゼなど、市民、あるいは民間団体、事業者、行政が協働して植樹を行うとともに、公園内の散策道路わきに、市民の花壇コーナーを数十カ所程度設け、市民の皆さんに公募を行いまして、それぞれの花壇コーナーに思い思いの花木を植えていただき、四季を通じての香りと彩りある公園ができたというふうに考えております。

基本的には、市民と行政が協働しての公園づくりこそが、いつまでも皆さんに親しまれ、愛される公園になると、私は考えております。私も、残された時間、余りございませんが、夢が実現となるよう、今後しっかり頑張っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） すばらしい公園ができるだろうと期待しております。

今、ふと考えますと、私は、旧甘木市に花いっぱい運動を展開しようと、市民祭りのときに大きな花花壇をつくりました。この花花壇を住民の皆様にあく持って帰ってもらい、できれば道に近い自分の庭のところに植えていただきたいと思います、そんなイベントを思い立ちました。しかし、今の部長のお話を聞きますと、花花壇も、ちょっと私としては飽きてきたけれど、ほかの方がなさるのなら、それでもいいかなと思ってましたけれど、もしかしたら、桜やロウバイや花木を、そのときに住民の方に買っていただき、そこに植える場所を考え、少しずつ植えていくと、部長のおっしゃるような四季の彩りのある甘木公園ができるかと、今思っております。

次に、毛虫のことなんですけれども、これは甘木公園と言わず、いろいろなところで問題になっております。できれば、本来であれば、1年間のスケジュールがあって、何月ごろに剪定をし、何月ごろには消毒をし、毛虫などが大量発生しないようにされるとは思うんですけれども、このスケジュールというのは決まっておりますでしょうか。

○議長（柴田裕隆君） 都市建設部長。

○都市建設部長（樋口信尋君） 公園の維持管理につきましては、年間を通じましてシルバー人材、それから、造園業者などに委託を行い、維持管理に努め

ているところでございます。

今、お尋ねの年間のスケジュールは、それぞれ下草刈り、トイレ、公園の清掃、今申します、消毒も含めます。それから、藤棚の剪定もありますが、これちょっと、簡単に紹介しますと、下草刈りは年3回、5～6、7～8、10～11というふうに、年3回行っております。それから、トイレは、法律でできましたけど、4カ所の清掃は基本的には毎日行っております。それから、公園内の清掃、これは草取り、あるいは清掃ですが、年間73回程度行っております。それから、駐車場等の樹木の管理、年間を通じて剪定とか、刈り込み、あるいは消毒、これもその時期に応じて実施をしております。それから、ツツジ等の剪定につきましては、4月中旬から7月に行っております。それから、藤の剪定は2月から3月に実施をしておりますところでございます。以上でございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） きちっと仕事が行われておるのであれば、毛虫の大量発生したときなんかは、すぐ気づかれると思いますので、できれば早目の消毒、これはですね、甘木公園だけではなくて、私は比良松中学校の横に桜並木がありますけれども、あそこの下を走るときに、葉っぱはなくなって、毛虫のふんが上からぽたぽたと落ちてきたこともありますので、やっぱり朝倉市内の道路に植えられておりますいろいろな木があると思いますので、これの消毒ということは、きちっと考えていただきたいと思います。

それから、公園の情報の提供なんかも、ホームページとか看板とかにつけてほしいという要望もあっておりますし、野鳥の写真、それから、花木の写真など、甘木公園の写真を書いて、どこかにそれを飾りたいなあという要望もあっておりましたので、もし、できることであれば、こういうところも考えていただきたいと思いますが。

○議長（柴田裕隆君） 都市建設部長。

○都市建設部長（樋口信尋君） 今、2点ほどございました。四季の情報等を市のホームページに掲載という部分があります。これについては、今後内部で十分検討をしたいというふうに思っておりますし、後段にあります公園での野鳥、それから、花木等の写真を紹介する掲示場の設置ということでございましょうが、確かに甘木公園を訪れる人や利用される方が、野鳥や花木等の写真や、公園の情報などを、他の人に紹介されることは、甘木公園をさらに詳しく知っていただくということにもなりますので、大変ありがたいことだと思っております。これにつきましては、現在ございますあずまや、それから、野外音楽堂、今ある施設をどうにか利用できないかという部分も検討しながら、今後設置の方向で考えたいというふうに思っております。以上です。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） ありがとうございます。よろしく申し上げます。

次、農業の活性化についてお尋ねいたします。

基幹産業としての農業の活性化は、職員の持てる力を発揮することから始まると思います。こういうふうには書いておりました。去年視察に行きました、中野市経済部売れる農業推進室の職員は、農家に足を運ばない日は1日たりともないという答えでしたし、農業者の中にあつてこそ課題が見えると言われました。中野市はキノコを特産品とし、我が家の料理大集合きのこ・フルーツ料理コンクール等を開き、入選者の作品集などもつくっておられます。きのこ・フルーツレシピカード、積極的に農業の活性化に取り組まれておりました。

私はいつもこんな話をここでするのですが、なかなか皆さんと相通じるところがありません。そこで、これは提案ですが、私どもは行政視察ですばらしい人たちと会う機会がたくさんにあります。私は、職員の皆様も、だれか担当の方、一緒について行くことはできないかと思っております。その中から専門職員などが生まれるのではないかと思います。議員の行政視察にだれか職員の方々を連れていくという考えはいけないものでしょうか、質問いたします。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（井上恒夫君） 過去、担当部長が所管委員会に随行をさせていただいた時期がございました。なかなか思ったような成果が上がらなかったんだと思います。途中で、今現在はやめておると思いますが、今、議員は担当者というようなお言葉をいただきましたので、議会事務局と十分打ち合わせて、どのような効果があるかというようなことについても検討する必要はあるかと思っております。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） 残念ながら、部長ではあんまりお役に立てないかなあと思います。できれば、係長、現場で直接動かれる方が一緒に行っていただくと、同じ感動を、その場所で味わうことができますし、こんなお話をするとき、ああ、あそこはああだった、もしかしたら、朝倉市の中でもこういうことができるのかもしれないというようなことがあるかもしれませんので、そこは積極的に考えていただきたいと思いますが。

○議長（柴田裕隆君） 総務部長。

○総務部長（井上恒夫君） 私よく存じ上げませんで、推測で申し上げましたが、財政的な面も確かにあったと思いますので、十分考えにやいけないことだと思っております。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） どうぞよろしく願いしておきます。

これは、だれが言われたことなのかは忘れてしまいましたが、これからの農業は生産からお客様の口に届くまでを一貫してプロデュースしなくてはだめだという言葉もありますし、農業の繁栄なしに国の繁栄もない。地元で隠れた魅力のある商品を、すべて自分で歩いて発掘すること、歩かなければ取れない情報ばかりである。この三つの言葉にとても感動しました。いつもいつも、皆様にお話しするときに、僕たちは助成金を取るだけで大変なんですよ、これ以上の仕事はとて手が回りませんと、よく聞きます。確かに大変でしょう。そして、それも大事な仕事です。しかし、市長が言われます、農業では金が上がらないと。でも、中島議員が言われました、変わらなければならないと。この農業で何としても利益を上げ、税金もいただくような、そんな産業にしていかななくてはならないと思います。市長、最後に一言。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（塚本勝人君） 農業で所得を上げて、税金を払っている人はどれだけあられるか、非常に私は疑問に思っております。林業でもしかり。昔は林業で、一雨降ったら偉いもうかったというような話を聞いておりますけれども、最近ほとんど利益が上がっておらない。そういうところから税金取ろうたって、それは無理な話で、ないものからは取れない。もうからんところからは取れない。もうからんところにはお嫁の来手もない。しかし、それでありながら、市はそれなりの農業振興課、農林課合わせますと、20名ぐらいの職員を抱えております。1人抱えますと700万円かかります。そうすると、20名ですと、1億4,000万円かかります。農林課をゼロにする。ゼロにして、その金を農協あたりに補助金として差し上げるということも一つの手ではないかなと。手ではないかなと思いますが、農業に対する考え方は人それぞれだと思います。

私は、最近よく東洋経済という雑誌をとっておりますが、中国は農業に補てん金をどんどん、この2000年から2010年の10年間で6倍にしておる。そのことによって、中国の農業は大分生き返っておりますね。それだけの補てん金をもらうと、モチベーションが上がってきますので、どんどん力を入れて、農業経営をするようになったということでもあります。でございますが、我々、それじゃあ、市役所の職員が、農協の職員と比べて、どっちが優秀かわかりません。それはわかりませんが、しかし、農業に関して専門的知識を持っておることは、農協職員にはかなわないというふうに、私は思っております。また、かなう必要もないと。だから、農協という組織があるわけですから、本来であれば、農協さんが真剣に、種のことから青果物の売上げのことまで、やはり頑張っていたかないといかんのじゃないか。行政は、言うなれば、三連水車とバサロの

問題がありますね。この問題についても、例えば、これは第三セクターですけれども、半分以上の資本金を出しておるわけですから、それもいかなものかなというふうに思っております。

今から先コミュニティの問題、どんどん大変な時期になります。そうなったときに、じゃあ、農業ばかりに行政が力を入れていいのかと、その辺は議会での、私には反問権はございませんので、また、日を改めまして、柴山議員に個人的にお尋ねをしたいというふうに考えております。

やることにはいいことと思います。例えば失業対策、昔は江戸に寄せ場というのがございましたですね。これは江戸湾を埋め立てをするときに寄せ場というのがございました。しかし、今の非常に就職困難な時期に、市が減反地を買い上げなら、買い上げして、そこにシルバー人材センターを利用しての雇用の創出のための農業、これは例えばとよみつひめの一大団地をつくるとか、この間、たしか柴山議員と一緒にじゃなかったですかね、あそこの北九州に行きました、水耕栽培のトマトの栽培、そういうものを団地形式でやったらどうかと。それで、シルバー、あるいは失対事業としてやったらどうかというふうなことも、これは研究していかなきゃならんというふうな状況にあるということは事実でございますので、しっかりと職員に勉強を申しつけながら、老兵は消えていきたいというふうに考えております。ちょっと今のは一言多うございましたが、そういうことでございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） 最初言いましたように、私は農業だけじゃなくて、工業も商業も活性化が必要だと思っておりますし、そうでないと、この朝倉市は立ち行かないと思っております。でも、農業はもうからない、もうからない、もうからないと思ってしまうと、本当にもうかりません。農業はもしかしたらもうかるかもしれん、もうかるかもしれんと思えば、もうかるかもしれませぬ。

私は、先日自民党の九州ブロック会議のところに、いろんな方に朝倉万能ネギでつくったネギドレッシングを持って行きました。それから、柿と三奈木砂糖とクズ、これぐらいの朝倉市がつくられた立派な袋に入れまして、これは朝倉市の特産でございます、九州各地から見えた皆さん、どうぞこれを食べてみてくださいと宣伝をしました。もちろん総裁にも持って行きました。それで、その次の会議のとき、柴山さん、あれはおいしかったですな、あのネギドレッシングは、今度来られるときに持ってきてもらえませぬかねという言葉がありました。たしかネギドレッシングは一つが500円やったと思います。私は、あんまりドレッシングの値段がわかりませぬので、友達に、このドレッシングは

高いかと聞きました。それは非常に高いと言われました。通常ドレッシングは380円ぐらいだろうと。そう思ったときに、喜ばれる商品をつくってある方もある。私は、これを三連水車に買いに行きました。三連水車でネギドレッシングはありませんか聞きますと、ネギドレッシングはどこにも展示してありませんでした。ないんですかと、聞きました。すると、向こうの冷蔵庫のほうになおしてあったそうです。そんなことでは、農業の活性化はできません。足ですよ、足。何でも体験すること、それが農業の活性化、商業の、工業の活性化につながります。私も太陽光はととても一歩踏み出せませんでした。先日のビッグサイトで、ああ、これは一歩踏み出すだけの価値はあると勉強させていただきました。

市長も、やめられるからあれですけれども、いつも東京に行かれておること、1回ならば2回、2回ならば3回、時間があれば、何回でも行っていただき、農業の活性化に力を添えていただきたいと思います。と思っています。

○議長（柴田裕隆君） 市長。

○市長（塚本勝人君） 東京事務所、大阪事務所を、できたらつくりたいですね。予算が要ると思いますけれども、やっぱり最先端のニュースを集めるためには、情報を集めるためには、東京事務所は必要ではないかなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員。

○3番（柴山恭子君） まことに東京というところはすばらしいところです。こげん人がおらんところがあるかと思えば、うそのように人がうようよとおります。その中で、何を売るか、何に皆さんが興味をしてくれるかは、私どもの宣伝にかかっております。万能ネギだけではなく、いろんなものを持って、いろんなところに行きたいと思っています。

私の一般質問、市長、これで終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（柴田裕隆君） 3番柴山恭子議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。

これにて一般質問を終了いたします。

午後3時15分まで休憩いたします。

午後3時3分休憩